

暮らし易い住宅は何を基準に評価しますか！

省エネ住宅や高断熱高気密住宅等、大手ハウスメーカーから、新しい機能を具備した住宅が発表されています。高機能を求めれば限りがありません。一般消費者が住宅を求める際に重視するポイントは、①建物の性能、②住宅の立地、③デザイン、④価格や手数料、⑤設備の性能、となっています。(H30年度、住宅金融支援機構) その内①建物の性能については高耐久性、耐震性、省エネルギー性、通風換気性、遮音性の順になっています。宣伝を見ていると、これらの要求を満たす為に、いろいろな新機能を付加し、設備を高性能化する事でコストはどんどん高くなっています。Iot (既報262号) など新しい考え方でエネルギーコストを抑え、快適な暮らしを謳っているところもあります。

例えば、高気密高断熱の家で南側の窓が大きく開放されている場合、冬は太陽の光を取り入れ、断熱性能の良さからその熱を保ち、低コストで、快適な生活を送れますが、夏はどうでしょう？ 夏の陽射しの輻射熱は部屋を暑くし(熱量は電気コタツに相当)、その熱は高気密高断熱性能により部屋に留まります。するとクーラーをフル運転しても快適さは得られません。そうすると高気密高断熱の住宅で、高性能の暖冷房機を使っても暮らし易い住宅とはいえません。その上、省エネのつもりが夏の冷房費によって消費電力の無駄を増やす事にもなっています。

昔は如何だったでしょうか？ 吉田兼好が「住まいは夏を旨とすべし」と言われた様に風の通りとヨシズや簾などで日射遮蔽を行っていました。しかし、現在は高気密高断熱により、シックハウスが発生すると強制換気が義務付けられ、C値やQ値といった隙間や熱損失を重視し、機械装置に頼っています。これが暮らし易い住宅でしょうか？

パッシブ設計という言葉が最近良く聞きます。自然をあるがままに利用する設計という事のように。落葉樹を植える事で夏の日射を防ぎ、冬は日射を受容れる配置や間取りを工夫する。夏至と冬至、春分・秋分の太陽の角度から庇やシェード等による日射遮蔽等も提案されています。先人の知恵を学びなおしたいものですね。

【情報】

ハウスガードシステムの講習会

注入木材を使い、指定された白蟻対策を講じた住宅はその内容により20年～30年の防腐防蟻保険が付加されるシステムの説明会です。宮崎会場はモデルハウスもあり、耐久性と、パッシブ設計の効果も体感できます。

日・場所 7月31日 (株)コイ宮崎工場(宮崎市赤江1244-1)
8月3日 株式会社ネクス(鹿児島市中央町4-32)
時間 10:30～11:45 基礎編(住宅の耐久性)
13:30～17:00 応用編(研究開発・最新情報)
(参加を希望される方は当社へ連絡下さい)

【定休日】

7月は1, 7, 8, 15, 16, 22, 28, 29日となります
8月は5, 12, 13, 14, 15, 16, 19, 25, 26日となります
宜しくお願いします。



宮崎モデルハウス(C値1.0, UA値0.46)